

名寄高新聞

新人戦特集

北海道名寄高等学校新聞局

2021.1.15

発行責任者 内村太一

支部ソフトテニス新人団体戦：名寄スポセン

下商に惜敗し2位

名産業には2-1で勝利

11月28日に名寄市スポーツセンターで、令和2年度高体連名寄支部高校新人ソフトテニス選手権大会・兼北海道高校新人ソフトテニス選手権大会(団体の部)名寄支部予選会が行われた。

男子の部には名高と名寄産業高校、下川商業高校の3校が参加。名高は名寄産業に2-1で勝利したが、下川商業には1-2で敗れ、1勝1敗の2位となった。

名高の初戦は名寄産業戦。第1試合は八島英雅君(1C)・渋谷健太君(1B)ペアが宮村・尾田ペアと対戦。第1ゲームは渋谷君のスマッシュなどで2点を先制するが、相手のサービスエースなどでデュースとなる。デュースでは相手が連続ミスをし、5-3で



力強くラケットを振り抜きボールを打つ山本烈王主将

このゲームを取る。第2ゲームも互いに点を取り合いデュースへ。名高は八島君のサービ



鮮やかにランニングボレーを決める畠田裕也君
サービスエースや渋谷君のボレーなどで得点するが
ミスも出て、試合は白熱。しかし、最後は相手にボレーを決められ8-10でこのゲームを奪われる。第3ゲームは相手のミスで2点を先取。その後、サービスエースで2点を奪われるが、最後は八島君がサイドいっぱいにレシーブを返して4-2でこのゲームを奪う。第4ゲームは八島君が左右にボールを振り相手のミスを誘い先取点。その後も八島君のサービスエースなどで得点し、4-2でゲームを連取する。リズムに乗る名高ペアは第5ゲームも力を發揮。最後は八島君と渋谷君が連続で前衛のサイドを抜いて4-2でこのゲームも奪い、ゲームカウント4-1で勝利した。

第2試合は山本烈王主将(2C)・畠田裕也君(2B)ペアが本平・田中ペアと対戦。第1ゲームはいきなり畠田君がボレーを決めるなどして2点を先取。しかしその後、名高ペアにミスが連続し5-3でこのゲームを奪われる。第2ゲームは相手ミスで得点を先取するが、カットサーブに苦しみサービスエースを奪われるなどして失点。デュースとなるも5-3

でこのゲームも連取される。第3ゲームは名高ペアが奮起し、山本君のサービスエースや畠田君のボレーが炸裂。4-1でゲームを奪い返す。第4ゲームは互いに点を取り合い接戦となる。途中、畠田君のボレーが決まるも、最後はサービスエースを決められ、4-6でこのゲームを落とす。第5ゲームは序盤に相手ミスと畠田君のハイボレーでリードするが、ミスが続き2-2。ここで畠田君がボレーを決めてゲームカウントを奪うが、そこから3連続失点。3-5でゲームを奪われ、ゲームカウント1-4で敗れた。

第3試合は名寄産業に選手がいなく不戦勝となり、名高が2勝1敗で名寄産業に勝利した。

名高の2戦目は下川商業戦。第1試合は山本・村瀬ペアが米澤・鷺見ペアと対戦した。第1ゲームは山本君が2本、村瀬君が1本のサービスエースを決めて4-2で先取した。第2ゲームは山本君がリターンエースで先制



ボレーを決め雄叫びを上げる村瀬翔汰君

(裏面へ続く)



するが、相手にボレーを2本決められるなどして、2-4で落とす。第3ゲームは相手にサイドを抜かれ、さらにストロークでミスが重なり1-4で奪われる。第4ゲームは序盤にダブルフォルトなどの相手ミスで3-1とリードする。しかし、相手のカットサーブに苦しめられリズムを崩し、4-6でこのゲームを連取される。第5ゲームは2-2から相手にサイドいっぱいのコースへ2本ストロークを決められるなどして3-5。このゲームも奪われ、ゲームカウント1-4で敗れた。

第2試合は八島・渋谷ペアが上西・三樹ペアと対戦。第1ゲームは相手にスマッシュやサービスエースを決められ、1-4でこのゲームを落とす。第2ゲームは序盤、ミスや相手のスマッシュなどで0-3とリードされる。しかし、ここで渋谷君が鮮やかなポーチからボレーを決める流れを引き寄せ、サービスエースや相手ミスで5-4と逆転。最後は八島君が前衛アタックを決めて6-4でこのゲームを奪い返す。第3ゲームは相手ボレーで先制されると、その後、互いにミスが続き2

-3。するとここで、相手に切れのあるカットサーブを決められ、2-4でこのゲームを落とす。第4ゲーム序盤は互いに点を取り合い2-2。しかしこの後、ラリーの打ち合いから短くなったストロークを2本続けてスマッシュされ、2-4でこのゲームも連取される。第5ゲームは後がなくなった名高ペアが意地をみせて3-1とリードする。しかし、ここからカットサーブで揺さぶられ、サービスエースなどで2失点してデュースへ。するとここで渋谷君が見事なスマッシュを決めて、ゲームポイント。最後は相手にストロークミスが出て、5-3でこのゲームを奪い返す。第6ゲームはボレーなどで0-3とリードされる。渋谷君がサービスエースで1点を返すも追加点を奪えず、1-4でこのゲームを落とし、ゲームカウント2-4で敗れた。

第3試合は和田・畠田ペアが土田・桑原ペアと対戦。第1ゲームは和田君がクロスに強いストロークを決めるなど、安定した打球で主導権を握り、4-2でこのゲームを先取する。第2ゲームも序盤、和田君のクロスへの



ストロークエースや前衛のサイド抜きで3-1とリードする。しかしこの後、相手にスマッシュを決められるなどしてデュースに入り、試合は白熱する。それでも最後は畠田君のボレーと和田君のストレートへの強打が決まり、6-4でこのゲームも連取する。波に乗る名高ペアは、第3ゲームでも畠田君が2本のボレーを決めるなどして相手を圧倒。4-1でゲームを奪う。第4ゲームは序盤に連携ミスなどで連続失点。その後同点とするも、最後はストロークミスと相手のボレーで2-4。ゲームカウント3-1とする。第5ゲームは互いにミスが出て1-3。ここから名高は和田君が前衛アタックや巧みなボール回しで相手を翻弄し4連続得点。5-3でこのゲームを取り、ゲームカウント4-1で勝利。

この結果、名高は1勝2敗で下川商業に破れ、惜しくも団体戦を2位で終えた。

声出しができていた 山本烈王 主将

最近は人材開発センターでの練習を中心だったのに、最初は広い空間に慣れずミスが多くかった。これから広い場所でも安定したプレーができるように練習していきたい。

名寄産業戦で自分が対戦した相手は中学校のときにペアを組んでいた人だったので、その情報を持っていた。今後、それらの情

報をチーム内で共有できるようにしたい。

大会前、ゲーム練習をあまり積むことができず、試合の流れをつかみきれなかったことが反省点。しかし、プレッシャーを和らげるための声出しはできていて良かった。

冬期間はゲーム練習が少ないので、筋力トレーニングなどを各自で取り組んでいく。

技術面での成長図る 吉原怜次 監督

今回はインドアの大会だったので、人材開発センターの体育館を借りて、練習を増やして基本を固めた。

団体戦だったが、皆で応援する雰囲気がしっかりできていた良かった。1・2年生ともに良いプレーができていると感じた。

下川商業には負けてしまったが、改めて

戦術などを磨くことが大切だと分かった。

今回の大会で印象に残ったのは和田君のプレー。相手を見て上手くコースを突いて戦えていたと思う。

今後は体育館での練習となるが、他にも様々な場所に出向いて練習していきたい。サーブなど技術面で成長を図っていきたい。